

静岡県内のインフルエンザ発生状況（2009/5～）

環境衛生科学研究所・感染症情報センター

2010年9月1日

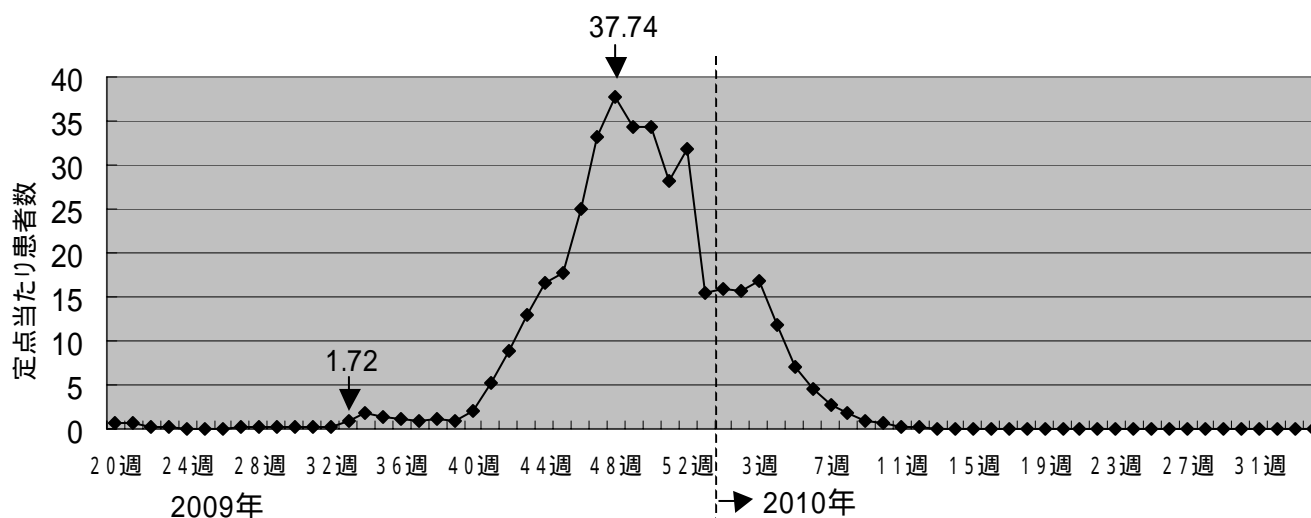
2009年4月27日にメキシコ、米国での「豚インフルエンザ」の広がりから世界保健機関（WHO）がフェーズ4宣言を行ないました。これを受けてわが国では、4月28日に「豚インフルエンザ」が感染症法上の「新型インフルエンザ」に位置づけられ、検疫体制が強化されました。5月9日に成田空港の検疫において、米国経由でカナダから帰国した高校生ら3名から新型インフルエンザウイルスが、PCR法（遺伝子増幅法の一つ）により検出されました。その後、5月16日には、国内初の二次感染者が神戸市と大阪府の高校生で確認され、高校生の集団感染が明らかとなりました。静岡県では、5月26日に静岡市で最初の県内発生が確認されました。

その後の県内の一定点当たりの患者数（指定された137の医療機関における一週間ごとの患者平均数）は、第34週（8月17～23日）に1.72となり、流行開始の指標である1.0を超え、第48週（11月23～29日）には37.74とピークを示しました。しかし、その後は減少を続け、2010年の第5週（2月1～7日）には7.06と注意報レベル以下の水準となり、第9週（3月1～7日）には流行の目安である1を下回りました。

2009年第20週（5月）から2010年第12週（3月）までに、各保健所から当所に依頼されたインフルエンザウイルス検体数は1,059件で、PCR検査で新型インフルエンザが陽性となった検体は808件、Aソ連型（AH1）は5件、A香港型（AH3）は29件でした。

一定点当たりの患者数はその後もさらに減少し、第13週（3月29日～4月4日）には全国平均で0.17、静岡県で0.06となり、3月31日に厚生労働大臣は最初の流行が沈静化したことを宣言しました。2010年8月10日には、WHOから、今回の新型インフルエンザ（A/H1N1）の流行状態の段階が「ポストパンデミック（世界的大流行後）」となった旨が声明されました。

新型インフルエンザは、現時点では沈静化していますが、今後冬季に向かい再び流行する可能性もありますので、当所では引き続きインフルエンザの発生動向およびウイルス性状の監視等を行なっていきます。



図．一定点（病院）当たりの患者数の推移（2009年5月～2010年8月）